

# さんぼみち

## 発行者

兵庫県立総合リハビリテーションセンター  
リハビリテーション中央病院  
〒651-2181 神戸市西区曙町1070  
TEL (078) 927-2727  
FAX (078) 925-9203

ホームページ <http://www.hwc.or.jp/hospital/>

## 着任のごあいさつ

院長 司馬 良一

14年4月中央病院の院長として着任しました。専門は整形外科、中でも関節外科、小児整形外科、小児リハビリテーションに長年携わってきました（神戸大学21年、舞子台病院5年、県立のじぎく療育センター9年）。この経験を生かし、中央病院では、今まで以上に、快適な療養環境を作り、安心して納得いただける安全で良質な医療、しっかりしたリハビリ、暖かい心の通ったいきとどいた看護が提供できるよう努めたいと思っております。

私は音楽が好きで明石の第九合唱団で歌っております。ベートーヴェンはこの中で“人は皆、兄弟である”という人間愛を歌わせておりますが、私はこれが好きで15年歌い続けてきました。愛があれば戦争もない、いじめも虐待もない、医療事故もない世界ができるに違いありません。

理念もことばも大事ですが、それを実行することが私はより大事だと思ひ、微力ながらがんばりたいと思ひます。

## 前立腺と前立腺肥大症のおはなし

泌尿器科

皆さんは前立腺というものを御存じでしょうか？これは膀胱のすぐ下にあつてここから出る尿道をとり囲み、成人ではクルミ大（20グラム程度）の男性だけにある小さな臓器です。精液の一部を分泌しており、その成分には殺菌能力のある亜鉛や、プロスタグランジン、クエン酸などが含まれていて精子の栄養源となっていると考えられています。

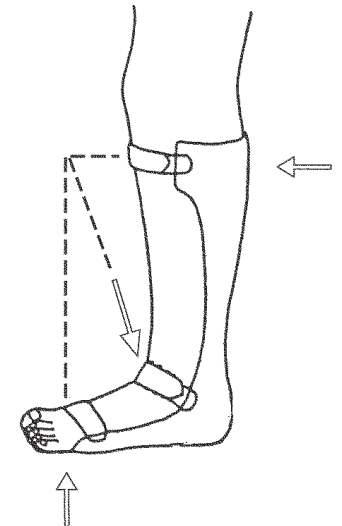
50歳以降の男性の排尿困難のおもな原因のひとつに前立腺肥大症があります。これは前立腺のなかでもおもに移行領域と呼ばれる尿道周囲の部分から発生し、その正体は分泌をおこなう腺組織、コラーゲン線維そして平滑筋線維が様々な割合で数的に増えた結節組織（病理学的には「過形成」）です。この組織学的な変化はすでに30歳代から始まりますが、70歳までは結節自体の大きさはあまり大きくならず、血中の男性ホルモン（テストステロン）が急激に低下しはじめる60歳代後半から70歳代になると肥大結節が急速に大きくなります。そして膀胱から出る尿道を圧迫して尿を出にくくしたり、残尿感をもよおしたりします。治療法としては、今では副作用の少ない良いお薬がありますし、また内視鏡を使った手術も以前に比べるとかなり安全におこなえるようになりました。尿の勢いが悪くなるのは年のせいだとあきらめておられる方、いちど泌尿器科をお訪ねください。

## 下肢装具

リハビリ療法部

装具は「機能障害の軽減を目的として使用する補助機器」で、その中で下肢（脚）に用いるものが下肢装具です。近視や遠視の人が視力障害を軽減する目的で使用する“眼鏡”と同様で、個人に適したものを使用することで生活が改善されます。下肢装具の目的は、体重の支持、変形の予防、変形の矯正、運動のコントロール（運動制限と機能回復）などです。種類もいろいろあり、材質、形（カットの仕方）など、個人に合わせて最適なものを主治医の指示（処方）のもと理学療法士が選択します。理学療法室にある装具を使用して評価も行います。できあがり後、適合判定を行います。装具の装着期間に関しても目的によって様々ですので、主治医の指示に従ってください。自己判断で外したり、別の装具に変更すると回復を遅らせることもあります。適切な装具を装着して歩行などの練習を行うことは、機能回復を助け活動を改善します。疑問がございましたら理学療法士にお尋ねください。

注意  
ベルトをきちんとしめないと装具の目的が発揮できません。



三点固定の原理

## 廃用症候群について

総合相談室

廃用症候群は、何らかの理由で長期の安静を強いられた場合に起こる合併症であり、代表的なものに筋萎縮による筋力低下、関節拘縮、骨萎縮、起立性低血圧、褥創、血栓性静脈炎、尿路結石、精神機能の低下などが挙げられます。特に高齢者では加齢に伴う身体機能、精神機能の低下が背景としてあるため、廃用症候群をきたしやすいので注意しなければなりません。

予防・改善法としては、寝たきり、あるいはそれに近い状態にある場合、できる限り離床を促し、日中の座位時間を増やしていくことが大切です。自分で起きたり、座ったり、介助があれば立ち座りや歩行が可能ならば、日常生活動作（トイレ動作・入浴動作・移乗動作など）のなかに取り入れて継続することも廃用症候群の予防・改善に効果的です。いずれにしても、医師や理学療法士、作業療法士に相談した上で、適切な指導を受けてから進めていきましょう。また、公的介護保険制度の実施により、様々なサービスを利用者本人が選択できるようになったため、デイサービスなどを通して社会参加を促し、楽しみを見つけることも、精神面に活力を与え、廃用症候群の予防・改善につながると考えられます。